

片瀬だより

令和5年6月25日発行
 編集・発行
 片瀬だより編集委員会
 藤沢市片瀬3丁目9番6号
 片瀬公民館
 電話 29-7171
 FAX 25-8907

公民館事業のお知らせ

◎申込みは、すべて本館へ電話・来館(平日のみ午前8時30分から午後5時まで)または電子申請で

片瀬公民館(本館)

知笑の輪倶楽部 《要申込》
 第1回
 『ハワイに学ぶ～先人たちの知恵・海は世界を繋ぐ～』
 講師：琢磨 啓子氏
 ・7月12日(水)
 午後1時30分から午後3時30分まで

第2回
 『簡単調理!パッキングをしてみよう』
 講師：藤沢栄養士の会 さつき会 富田 唯里氏
 ・9月4日(月)午前10時から正午まで

夏休み子ども事業 《要申込》
 ・7月31日(月)午前10時から正午まで
 工作『ポヨヨン宇宙人をつくろう!』

・8月1日(火)午前10時から正午まで
 調理『おうちでカフェ・ランチ』

・8月3日(木)・4日(金)
 午前9時30分から11時30分まで
 スポーツ『スポンジテニス』

楽しく子育て 《要申込》
 『保育士さんとあそぼ!』
 ・7月19日(水)午前10時から11時30分まで

『親子で3B体操』
 ・8月16日(水)午前10時から11時30分まで

『音であそぼ!』
 ・9月20日(水)午前10時から11時30分まで。

おもちゃの病院 《申込不要》
 ・7月15日(土)
 ・8月19日(土)
 ・9月16日(土)
 各回、午後1時30分から3時30分まで
 ※部品代がかかる場合があります。

片瀬しおさいセンター

夜のリフレッシュエクササイズ 《申込不要》
 『ダンス エクササイズ
 DISCO WORLD』
 ・7月13日(木)
 午後7時から8時まで

『心と身体をつなぐバレトン』
 ・8月24日(木)
 午後7時から8時まで。

バドミントン卓球開放 《申込不要》
 ・7月15日(土)・9月10日(日)
 『バドミントン開放』
 午前9時から正午まで
 『卓球開放』
 午後1時30分から
 午後4時30分まで

片瀬ライフを楽しむ 《要申込》
 『シーカヤック体験教室』
 ・9月2日(土)
 午前10時～正午
 ※片瀬地区在住の方、優先



赤ちゃん和妈妈の 《要申込》
 ふれ愛タイム～ピラティス～
 ・9月12日(火)
 午前10時から11時30分まで
 4ヶ月から7ヶ月児と母親

スマホ活用術 《要申込》
 ～もっと出来れば
 もっと便利に～
 ・9月6・13・20日(水)
 午後2時から4時まで

スマホお助け隊 《要申込》
 ・7月20日(木)
 ・8月17日(木)
 ・9月21日(木)
 午前9時から正午まで

サークル共催 《要申込》
 『湘南フープクラブ
 ～三世代で楽しもう フラフープ～』
 ・7月24日(月)
 午前9時40分から10時40分まで

サークル共催 《要申込》
 『湘南ウクレレソロサークル』
 ・8月18日(金)
 ・9月1日(金)
 午後1時から4時まで



詳細につきましては、館内の配布チラシ・地域回覧・広報ふじさわをご確認ください。



片瀬公民館HPからも確認いただけます。

はじめまして

新たに着任された片瀬公民館長・片瀬中学校の教頭先生をご紹介します。

片瀬公民館

幸田 一線 館長



令和5年4月1日付で、前片瀬公民館長の後任として館長に就任いたしました幸田一線です。地域の皆様には日頃より公民館の活動、運営に対し、多大なるご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

公民館は市民生活の向上や地域住民の拠点施設であり、職員はその役割を果たしていきけるよう運営して参りたいと考えておりますので、片瀬地区の皆様には引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。最後に、多くの皆様方のご来館を心からお待ちしております。

片瀬中学校

外崎 瑞穂 教頭



私は2013年に前任校から片瀬中学校に異動し10年間勤務したのち、この度教頭になりました。今年11年目にして教頭になり、より一層責任の重さを感じています。一方これまで片瀬地区の皆様の温かい雰囲気を感じながら仕事を続けられたことは大変幸せなことだとも感じています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

先日の新型コロナウイルス移行にともない、教育活動の制限が緩和されつつあります。生徒たちが授業や学校行事にさらに積極的に楽しんで取り組んでくれることを期待しています。

また地域の方とのつながりについても、コロナ禍では難しい面もありましたが今後はさらに交流を深めていけたらうれしいです。私も新たな気持ちで、全国的にも有名な片瀬地区に貢献できるように、力を尽くして参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

片瀬の老舗を訪ねて⑨

「和菓子司 扇屋」

今回は龍口寺前にある和菓子司の扇屋さんをお訪ねしました。本物の江ノ電がはめ込まれたお店の前はいつも記念撮影をする人々で賑わっています。ちなみにこの江ノ電は平成2年3月まで使われていた車両だそうです。

お店の創業は龍口寺に残る記録から天保年間(1831年〜1845年)ではないかとのこと。その頃は龍口寺の境内で営業していました。大正時代に山門近くに移転、昭和9年に現在の場所へ移り、今に至っています。現在は、6代目の杉並善久さんと奥様の夏子さん、善久さんのお母様の芳子さんと営んでおられます。

名物の「江ノ電もなか」を売り出したのは昭和60年4月1日でした。もなかは、江ノ電を参考にしたパッケージで包装され青電、赤電、新車、チョコ電、江ノ電の5種類があり、館もそれぞれ違います。パッケージには「江ノ電もなか」を売

ケージには「江ノ電もなか」を売り出した日付の切符が印刷されています。特徴をとらえた小さな箱入りの江ノ電もなかは、江ノ島土産や江ノ電乗車記念に買い求めるお客さんが絶えないのも、うなずけます。

「代々受け継がれてきた安全で安心できる材料で作っています」という夏子さんのお話。それも長く愛されている秘訣だと思います。

店内には江ノ電で使われていた椅子や珍しい道具が沢山展示され、こちらも江ノ電好き、乗り物好きにはたまらないご馳走かもしれません。



切符。日付にご注目！江ノ電もなか発売日



6代目 杉並義久さん 夏子さん ご夫妻



お店の入口にあるのは、平成2年まで使われていた車両です。パンタグラフは屋根の上にあります。

江の島道をめぐる②

この「江の島道」を東海道から分かれて、遊行寺前の境川にかかる遊行寺橋を渡るとすぐに杉山検校が寄進した江の島弁財天道標が目に入ります。杉山検校は幼少期に病で失明し、その後幾多の苦勞を経て日本独自の刺鍼技術である「管鍼法」を完成させた方で、その「管鍼法」の発想を江の島で得たため、江の島への信仰が篤かったと伝わります。江の島に護摩堂や三重塔を建立、さらには藤沢宿から江の島にかけての約4kmの間に、江の島までの道順を指し示すため48基の「江の島道標」を寄進したと伝えられています。

また杉山検校の故事にあやかり、目の不自由な方が江の島詣でをする様子が、江戸時代の浮世絵に描かれているものもあります。

さてこの道標は花崗岩製、同形同大で標身高120cm、各面幅20cmの仙頭角柱形で、四面のうち三面に「一切衆生」「多能し満道」「二世安楽」の銘が刻まれていて、通常よりも深く文字が刻まれており、目の不自由な方も触れてわかりやすいように杉山検校が配慮したと言われています。

「江の島道標」は現在藤沢市内に14基、鎌倉市内に1基、世田谷区に1基、

の計16基が現存しており、藤沢市内に現存する江の島道標のうち12基が藤沢市指定文化財になっています。このうち江の島道沿いには10基が地図の矢印のところに建っていますが、寄進当時からその位置にあったわけではなく、道路工事などで移設を繰り返しています。それでも、西行戻りの松の道標(片瀬3・10-15)には「西行もどり松」と裏面に、あります。

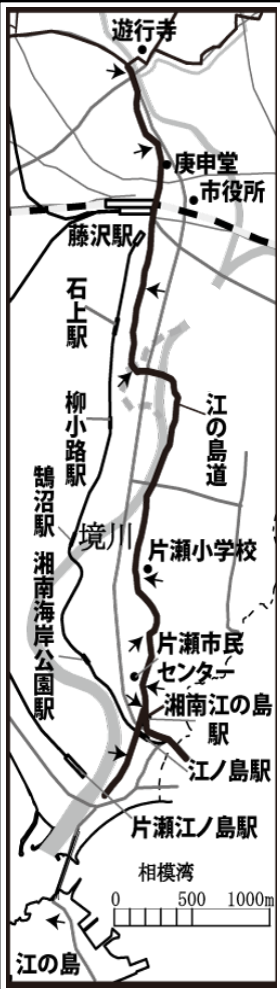
また、湘南モノレール「湘南江の島」駅付近



の道標(片瀬3・15)には「従是右江嶋道」「左龍口寺」と記載されており、現在の位置に近いところに建立されたものでしょう。江の島道を歩かれる際に、ぜひご確認ください。

なお、この片瀬3・15の道標には「願主江戸麴町」ともあり、現存する残り15基とは形式が異なっています。

今回は西村博志氏による「杉山検校と江の島」「藤沢市文化財報告書第57集」2022藤沢市教育委員会刊行を参考にしました。



江の島は教材の宝庫⑤

「江の島の磯は、

地震が生んだ遊び場」

江の島の南の磯に行くと、釣りや磯遊びを楽しむ人々が多く見られます。もし断崖絶壁だけの土地だったら、これほど多く人が楽しめるでしょうか？

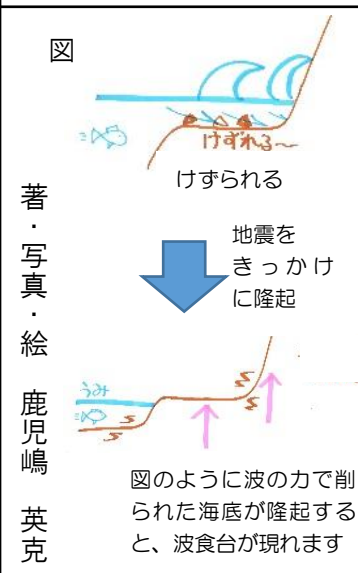
ところが都合良く海辺だけでは低くて平らな土地が広がっていません。この土地はどうやって作られたのでしょうか。

この土地は「波食台(はしよくだい)」と言います。江の島は地震



のたびに隆起を繰り返してきました。近代では「元禄地震」「関東大震災」によって1~2m隆起したと考えられています。図に示すように海底で波の力により削られた場所が地震によって隆起すると、いまのような台状の土地が現れます。

この波食台もいざれ波や風雨の浸食により削られてしまう運命ですが、いつかまた地震によって隆起し、新しい波食台が現れるかもしれません。



私の散歩道

「江の島

サムエル・コッキング苑」いつもの散歩より長く歩きたい時に、ちよつと無理をして江の島サムエル・コッキング苑まで散歩します。

サムエル・コッキング苑でひと休みして帰るのがいつものコースです。昨年リニューアル工事を終えた苑内は、夜のイベント時を除いて終日無料になりました。

またベンチが増え、屋根のある施設も出来たので、小さな孫を連れて出かけても困ることがありません。

海から吹いてくる心地よい風に吹かれると心身ともに元気が出てきます。



ふるさと片瀬く今昔あれこれ④⑩

中村 喬

「塔」のある暮らし

私が片瀬小学校に入学した昭和二十一年には江の島に灯台はなかった。島に展望塔が造られたのは昭和二十六年のことである。戦時中に多摩川の川べりにあった訓練用の落下傘塔の鉄材などを転用したのである。自動車の乗り入れができない島に資材を運び込むには大変な苦労があったと聞いている。

平和塔と名付けられたこの塔には灯台も設置された。戦争のイメージを払拭した命名、そして灯台の光が私たちに明るい未来を予感させてくれた。今江の島の展望塔はシーキャンドルと呼ばれて新たなシンボルとなっているが、私の心には平和塔の姿と名前が刻み込まれている。

江の島には三重塔もあった。江戸時代には管鍼法という鍼治療の方法を考え出した杉山和一(※)が江の島弁財天を厚く信仰し寄進したと伝えられている。江の島を描いた浮世絵にもその塔の姿は残されている。江の島の入り口近くに建っていた塔は百八十年の間、島の人々の暮らしを見守っていた。

しかし、明治になって全国的に行われた廃仏毀釈によって三重塔は取り壊されてしまった。

「塔」と言えば片瀬の町の暮らしにもなじんでいる。

龍口寺の五重塔は、明治三十年に着工、十余年の歳月をかけて四十三年に完成している。大正十二年の関東大震災で近辺の多くの建物は倒壊したが倒れることはなかった。

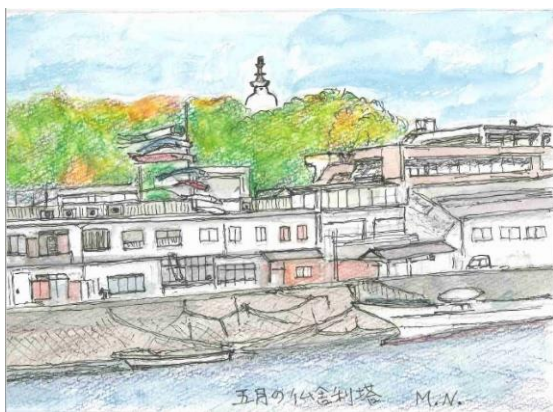
寺に建てられた「塔」はもともと仏舍利を納める墓であった。仰ぎ見る私たちの心に安らぎを与えてくれる。

昭和四十五年には日蓮上人の法難七百年を機に龍口寺の山上に新しく仏舍利塔も建てられ地域の暮らしになじんでいる。

かつて存在した、また今も存在する「塔」に見守られている江の島・片瀬の暮らしが楽しい。

※ 杉山和一・・・後の杉山検校

【仏舎利の塔を残して山若葉】



片瀬市民図書館からのご案内
電話 28-6935
市内に在住、在勤、在学の方ならどなたでも、一人10冊まで2週間借りられます。

〈開室時間〉

火・日曜日
午前10時～午後5時

【新刊案内】

「マリコ、東奔西走」

林 真理子

「母の味、だいたい伝授」

阿川 佐和子

「うたかたモザイク」

一穂 ミチ

「糸暦」

小川 糸

「本売る日々」

青山 文平

「署長シンドローム」

今野 敏

「魔女と過ごした七日間」

東野 圭吾

「晩節遍路」

(吉原裏同心 ③⑨)
佐伯 泰英

「朝悩まないお弁当」

はるめし

「るるぶ清里蓼科24」

「るるぶ信州24」

「楽ありや苦もある」

地味ごはん
和田 明日香

のぞいてみよう！公民館

「楽しく子育て」

乳児期から未就園児期までのお子さんと保護者の方が楽しめるように英語や工作、クリスマス会など毎回異なる内容で毎月第3水曜日に開催しています。

乳児期のお子さんも、その場の雰囲気を感じてくれるだけで十分。ちよつと大きいお友だちが参加している姿をじつとみています。

昨年までは2部制でしたが、今年はゆつたり1時間半。

「まだウチの子には早いかな」と思わず、ご参加ください。

後半のフリートークの時間を大切にしていきます。ご参加をお待ちしています。



編集後記

「爽やかな風のような人」

編集委員の一人でお世話になったSさんが、春を待たずに静かに旅立された。仲間に入れさせて頂いた後、散歩やイベントで度々お会いした。

編集の段取りをする合間で、何気ない世間話を交わすのが楽しみの一つだった。今でも穏やかな笑みをたたえながら、爽やかなお顔が風のように現れそうな予感がある。

日頃Sさんが気に留められていたタブの木のひこばえは、日に日に枝を伸ばしている。